

## 総務教育常任委員会

調査には、薄葉好弘委員長、富永創造副委員長、栗崎千代松委員、青山英樹委員、鈴木一夫委員、熊田宏委員

総務教育常任委員会では、10月17、18日に、子育て支援について先進的取り組みをしている、茨城県の利根町で、視察研修をおこないました。

利根町は、茨城県の最南端に位置し、都心から40キロメートル圏内にあります。南は利根川をはさんで千葉県我孫子市、印西市に接し、北は龍ヶ崎市、東は河内町、西は取手市に接しています。平坦な地形に、肥沃な水田が広がり、豊かな自然と抜群なアクセス環境の中で、子育て環境の良いまちづくりに取り組んでいる町であります。

町で行っている「子育て応援手当支給事業」について説明があり新生児の出産に対し、新町民の誕生を祝福するとともに、その子育てを行う保護者に対して、子育て応援手当を支給することに

より、明日の地域づくりを担う子どもたちの健全育成を図り、福祉の増進に寄与することを目的とした事業であります。事業の内容は、第2子以降を出産した場合に支給し、15年目まで総額50万円を支給。さらに、第3子以降の子に対し、15年目まで総額100万円を支給する事業となっております。

次に、「通学時のヘルメットの無償配布（ヘルメット贈呈事業）」については、中学校入学時に、新1年生に対して自転車通学用の全面反射型ヘルメットを贈呈し、登下校時の安全確保を図る

こと。その他、第3子以降の児童生徒の学校給食費支給額の全額を助成する「学校給食費の無償化（給食費助成事業）」の実施。さらに、小学校新入

学予定の児童にお祝いとして、ランドセルを無償で贈呈する「ランドセルの贈呈事業」を行い、保護者の経済的負担を軽減し安心して子育てができる環境を整備するとともに少子化対策の推進を行う施策を行っているとの説明でありました。

当町においても、利根町と同様に少子高齢化が進み、年々人口が減少している状況にあります。子育て家庭への経済支援等を行い、子育て環境の向上を図り、少子化抑制に向けた政策が必要であると感じました。



総務教育常任委員会

## 産業民生常任委員会

調査には、吉田伸委員長、三村正一副委員長、角田秀明委員、大木義正委員、加藤宏樹委員、安井敬博委員、鈴木隆司委員

産業民生常任委員会では、10月14、15日に、栃木市の道の駅「みかも」、茂木町の道の駅「もてぎ」及び常陸大宮市にある道の駅「常陸大宮かわプラザ」を視察してまいりました。

茂木町は、栃木県南東部に位置し、道の駅「もてぎ」は、平成8年4月16日に栃木県第1号として「道の駅」の登録を受けており、当初は、テナント方式の運営でしたが、現在は第3セクター「株式会社もてぎプラザ」が運営しています。施設は、駐車場、公衆トイレ、農産物直売所、物品販売、レスト

ラン及び6次化産業への加工所があります。特産品を加工した「とちおとめアイス」、「えごま油」

「ゆず塩ら〜めん」等のヒット商品の開発が集客に結びつき、今年さらには、町内産米粉と大型養鶏所の卵を原料としたバウムクーヘンを製造・販売する工房をオープンさせるなど、ヒット商品開発に向けて取組んでおります。また、道の駅は防災拠点として重要な役割を果たすことから、平成25年に避難所、備蓄倉庫、太陽光発電及び蓄電池を備えた「茂木町防災館」が整備されております。

次に、常陸大宮市は、平成16年10月16日に5町村が合併したまちで、道の駅「常陸大宮かわプラザ」は、今年3月25日にオープンしました。道の駅の運営は、第3セク

式会社」が行っており、主な施設は、駐車場、公衆トイレ、農産物直売所、物品販売、レストラン及び6次化産業への加工所があります。また、

交流・体験機能として、公園、体験農園、親水広場及びイベント広場が併設され、特産品を加工した「えごまジュラード」のヒット商品の開発が集客に結びついており、その他、川沿いの地形を利用した環境への配慮や防災拠点機能など道の駅の利便性向上、安心・安全を図る機能が見られました。

当町においても道の駅の建設にあたり、6次化商品の開発による集客の方法について、今後の検討が必要であると感じました。



産業民生常任委員会